

## 【現状】

- 小児がん治療が向上し、小児がん患者の生存率も70%を超え、長期に生きることが可能な時代になった。
- がん治療後に、循環器疾患や内分泌代謝疾患、二次がん等、さまざまな合併症を抱えている。

## 【課題】

- 小児・AYA世代のがん経験者に対する急性期治療後の健康管理体制が十分ではない。
- ・ 小児がん経験者の晩期合併症の管理が不十分であること。
- ・ 晩期合併症やがん以外の健康の問題への対応が、地域と連携していない。
- ・ 二次がんを見つけるためのシステムがない。



## 対応策 (案)

## 小児・AYA世代のがん患者への長期フォローアップ体制を構築する

- 論点① 長期フォローアップに必要な支援について
- 論点② 長期フォローアップに関する構築の担い手について
- 論点③ それぞれの担い手の役割について
- 論点④ 小児科から成人診療科への移行・病診連携について
- 論点⑤ 長期フォローアップ体制の構築において行政が担うべき課題について